

InstallAnywhere 2014 リリースノート

2014年8月

はじめに

InstallAnywhere は、異なる環境 (物理的/仮想/クラウド) で統一感のある洗練されたインストール体験を提供する最先端のマルチプラットフォーム インストール開発ソリューションです。

InstallAnywhere 2014 Premier Edition の新しい機能の一部として、簡単にアップグレードを作成できる機能、Apple OS X の認証サポートのアップデート、MySQL サーバーへの接続および SQL スクリプトの実行サポートの拡張、および Web アプリケーションをローカルまたはリモート Apache Tomcat サーバーに配置するための機能強化が提供されています。さらに、InstallAnywhere 2014 のすべてのエディションで、新しいバージョンの Red Hat Linux と Ubuntu をオーサリングおよび実行時の環境としてサポートします。

InstallAnywhere 2014 について、リリースノートのアップデートを含む最新情報は、[オンラインバージョンの InstallAnywhere 2014 リリースノート](#)を参照してください。

新機能

以前のバージョンが存在する場合、新しいバージョンをインストールする前にそれをアンインストールするアップグレードを作成できる機能

InstallAnywhere では、アップグレードの作成がサポートされています。実行時、ターゲットシステム上に製品の以前のバージョンがインストールが存在する場合、以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールします。以前のバージョンが存在しない場合、インストーラーは新しいバージョンをインストールします。

アップグレードの設定を構成するには、[プロジェクト] ページにある [アップグレード] ビューを使います。

アップグレードの要件として、製品のベースバージョンのインストール時にサイレントモードが有効となっている必要があります。つまり、アンインストーラーは以前のバージョンをサイレントでアンインストールすることが可能である。

この機能は、InstallAnywhere の Premier Edition で提供されています。

更新された Apple OS X 用の認証サポート

OS X ベース インストーラーおよびアンインストーラーで、標準ユーザーの書き込みアクセスが制限されている場所にファイルをインストールまたは削除する場合、プロジェクトで認証が必要であるように構成することができます。このサポートは、OS X 10.8 以降のシステム用に更新されています。認証が必要なときに、ルート ユーザーではない標準ユーザー、または十分な権限を持たない管理ユーザーがインストーラーまたはアンインストーラーを起動しようとすると、処理を続行するためには管理者名およびパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

OS X 10.7 が搭載されているターゲット システムでは、この認証サポートが含まれているインストーラーを実行することができません。

OS X ベースのインストーラーおよびアンインストーラーで認証が必要であるかどうかを示すには、[Mac OS X] 領域 ([プロジェクト] ページ > [プラットフォーム] ビュー) にある [認証] カテゴリの設定を使用します。

この機能は、InstallAnywhere の Premier Edition で提供されています。

MySQL サーバーへの接続および SQL スクリプトの実行に関するサポート拡張

InstallAnywhere Premier Edition では、MySQL サーバーへの接続および SQL スクリプトの実行に関する強化機能が提供されています。

エンドユーザーがローカルおよびリモート サーバーの接続情報を指定できる機能

エンドユーザーがローカルまたはリモート サーバーの名前などの接続情報や、サーバー認証を使ってサーバーに接続するときに使用する資格情報を指定できる実行時パネルまたはコンソールをプロジェクトに追加することができます。また、オプションでエンドユーザーが入力した接続情報のテストを有効にすることもできます。

新しい実行時パネルとコンソールをプロジェクトに追加するには、[データベース接続の選択 (MySQL)] パネルまたはコンソール アクションを追加します。これらのアクションは、InstallAnywhere アドバンスド デザイナーの [シーケンス] ページにある [インストール前] ビューで使用できます。

デフォルトで、これらの新しい実行時パネルとコンソールでは \$DB_NAME_VARIABLE\$ および \$DB_SERVERHOST_VARIABLE\$ などの変数を使ってエンドユーザーが入力する値を格納します。

ターゲット システム上でデータベースを作成できる機能

[SQL スクリプトを実行] アクションは、今回よりオプションで、ターゲット システム上でデータベースの作成をサポートします。[シーケンス] ページの [インストール] ビューでこのアクションを

選択したときに表示されるプロパティ カスタマイザーに、新しい [MySQL データベースの作成] チェックボックスが追加されました。これを使って、実行時にデータベースを作成するかどうかを指定することができます。

[構造] ページの [ホスト] ビューで選択されたデータベース ホストが選択されたときに以前表示された接続関連の設定の一部 (サーバー ホストやサーバー ポートなど) は、[SQL スクリプトの実行] アクションのビューの下に表示される新しいタブに移動しました。

MySQL 5.5 および 5.6 のサポート

InstallAnywhere では、MySQL 5.5 および 5.6 データベースを管理できるサポートが追加されました。

SQL サーバーの管理に関するドキュメントの拡張

SQL サーバーの管理に関するドキュメントが拡張されました。今回より、SQL データベースへの接続に適切なドライバーを含める方法を説明し、また追加の手順情報も提供します。詳細は、InstallAnywhere ヘルプ ライブラリの「データベース サーバーの管理」セクションを参照してください。

Web アプリケーションをローカルまたはリモートの Apache Tomcat サーバーに配布するためのサポート

InstallAnywhere Premier Edition では、Web アプリケーションを Tomcat サーバーに配布する機能が強化されています。

エンドユーザーが Tomcat サーバーの接続情報を指定できる機能

今回より、Web アプリケーションがサーバーに配置される前に、エンドユーザーが Apache Tomcat サーバーの設定を指定できるランタイム パネルまたはコンソールをプロジェクトに追加することができます。たとえば、ユーザーがアプリケーションをローカルまたはリモート Tomcat サーバーのどちらに配置するのを選択できるようにします。また、エンドユーザーが Web アプリケーションを配置するローカル Tomcat サーバーのパスや、リモート Tomcat サーバーの名前といった情報を指定できるようにします。

新しい実行時パネルをプロジェクトに追加するには、[Tomcat ランタイム配置] パネルまたはコンソール アクションを追加します。これらのアクションは、InstallAnywhere アドバンスド デザイナーの [シーケンス] ページにある [インストール前] ビューで使用できます。

デフォルトで、これらの新しい実行時パネルとコンソールでは \$TOMCAT_DEPLOYMENT_OPTION\$ および \$TOMCAT_SERVER_PATH\$ などの変数を使ってエンドユーザーが入力する値を格納します。

Apache Tomcat 7 および 8 のサポート

InstallAnywhere は、今回より、Web アプリケーションの Tomcat 7.0.x および 8.0 サーバーへの配布をサポートします。

Apple OS X 用の Java 8 サポート

InstallAnywhere は、今回より、Apple OS X Mountain Lion (10.8) および OS X Mavericks (10.9) 上で Oracle Java 8 をサポートします。

Red Hat Enterprise Linux 6.5 および Ubuntu 14.04 のサポート

InstallAnywhere では、インストーラーの実行時環境として、および InstallAnywhere オーサリング環境として次のプラットフォームがサポートされています。

- Red Hat Enterprise Linux 6.5 (デスクトップとサーバー エディション、x64)
- Ubuntu 14.04 (x64)

強化機能

一部の Apple OS X ベースのシステム上で CD ボタンを参照できる新しい変数

[メディアの変更] 実行時パネルには、エンドユーザーが使用する次のインストールメディアを参照できる [参照] ボタンがあります。Oracle Java 7 Update 45 よりも前のバージョンを使用する Apple OS X ベースのシステムで、このパネルのボタンにネイティブ リソースを使用すると、[参照] ボタンが正しく動作しません。ネイティブ リソースの代わりに Swing リソースを使用して、[参照] ボタンの問題を回避する場合、新しい `ia.mac.filechooser.substituteSwingInsteadOfNativeForOlderJRE7` 変数を Oracle Java 7 Update 45 より前のバージョンを使用する OS X ベースのシステムをターゲットとするインストーラーには True に設定します。このプロパティのデフォルト値は、False です。

`ia.mac.filechooser.substituteSwingInsteadOfNativeForOlderJRE7` を True に設定するには、プロジェクトで次のコマンドライン パラメーターを指定します ([プロジェクト] ページ > [JVM 設定] ビュー > [インストーラーの設定] タブ > オプションのインストーラー引数):

```
-Dia.mac.filechooser.substituteSwingInsteadOfNativeForOlderJRE7=true
```

この強化によって、IOA-000085117 の問題が解決します。

Windows サービスの登録におけるサポートの強化

[Windows サービスの登録] アクションには、新しい "サービスの説明" 設定があり、インストーラーが Windows ベースのターゲット システムに登録する Windows サービスの説明を指定できます。

この説明は、サービス コントロール マネージャーの [説明] 列に表示されます。また、サービスの [プロパティ] ダイアログ ボックスにある [全般] タブの [説明] ボックスにも表示されます。

この強化によって、IOA-000036897 の問題が解決します。

ポルトガル語の実行時文字列の更新

ポルトガル語 (ブラジル) および ポルトガル語 (ポルトガル) 用のデフォルト実行時文字列は、2009 年から実施されている、ポルトガル語新正書法 (スペリング) 協定 (1990) を反映して更新されています。

これらの変更は、InstallAnywhere Premier Edition でサポートされています。

重要事項

InstallAnywhere の評価

InstallAnywhere のライセンスをまだ購入していない場合も、ライセンスの設定をせずに、インストールして、一定の期間、使用することができます。このシナリオで InstallAnywhere を使用している場合、InstallAnywhere は評価モードで実行されます。評価モードでは、InstallAnywhere が起動されるたびにライセンス ウィザードが起動され、評価期間の残日数が表示されます。評価期間内にライセンスを設定しなかった場合、InstallAnywhere は評価期間が終了と共に使用できなくなります。ライセンスの設定は、評価期間が終了するしないにかかわらず、いつでも行うことができます。

InstallAnywhere を評価モードで使用する場合、作成したインストーラーは、一定期間のみ実行可能です。InstallAnywhere の評価版でインストーラーをビルドした場合、インストーラーは 3 日後に動作しなくなります。

InstallAnywhere のインストールとライセンス ファイルを取得する

InstallAnywhere のインストールとライセンス ファイルは、[フレクセラ・ソフトウェアの製品ライセンス センター](#)から取得できます。手順については、InstallAnywhere の[ダウンロードおよびライセンスの概要](#)をご覧ください。InstallAnywhere の同時接続ライセンスをご購入の場合、同じサイトから、ライセンス サーバー ソフトウェアをダウンロードすることもできます。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

次の情報では、InstallAnywhere 2013 以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallAnywhere 2014 にアップグレードするときに発生する可能性がある問題について解説されています。また、新しい InstallAnywhere 2014 プロジェクトと InstallAnywhere 2013 以前のバージョンから InstallAnywhere 2014 にアップグレードされたプロジェクト間において遭遇する可能性がある動作の違いについてもアラートします。

ターゲット システムの OS X バージョン要件を変更する

Apple は OS X 10.8 以降で完全な認証サポートを提供します。Apple が OS X 10.7 で提供する認証サポートには制限があり、今後 OS X 10.7 ベースのシステムでの使用は推奨されません。InstallAnywhere プロジェクトで、OS X ベースのインストーラーには管理者資格情報が必要であることを指定した場合 ([プロジェクト] ページ > [プラットフォーム] ビュー > [Mac OS X] 領域 > 認証)、InstallAnywhere がビルドするインストーラーおよび対応するアンインストーラーを OS X 10.7 ベースのシステムで実行することはできません。OS X 10.8 以降のシステム上では、ルート ユーザーおよび管理者ユーザーがインストーラーを実行できます。標準ユーザーの場合、インストールを続行するためには管理者資格情報を入力しなくてはなりません。

Apple は今後、OS X 10.6 以前をサポートしません。そのため、InstallAnywhere では OS X 10.6 以前のインストーラーの作成はサポートされていません。マシンに OS X 10.6 以前がインストールされているエンド ユーザーが InstallAnywhere 2014 でビルドされたインストーラーを実行しようとすると、インストーラーが正しく実行する場合と、予期しない結果が発生する場合があります。

InstallAnywhere を実行するためにサポートされている OS X バージョンのリストにおける変更

InstallAnywhere を実行する OS X ベースのシステムに必要な OS X の最小バージョン (オーサリング環境) は、今回より Oracle Java 7 が搭載された OS X 10.7.3 です。以前は、OS X の最小要件は OS X 10.4 でした。

InstallAnywhere を実行するためにサポートされている Windows バージョンのリストにおける変更

InstallAnywhere を実行する Windows ベースのシステムに必要な Windows の最小バージョン (オーサリング環境) は、今回より Windows Vist または Windows Server 2008 (x86 および x64) です。以前は、Windows の最小要件は Windows XP でした。

InstallAnywhere のノードロック ライセンス使用時における、プロジェクトオートメーション API の新しい要件

InstallAnywhere のノードロック ライセンスを使用している場合、プロジェクトオートメーション API を使用するとき、ライセンス ライブラリをロードする必要があります。これは通常、IDE 設定を使って構成するか、Java クラスの実行時にコマンドラインを使って次のパラメーターを渡して行います:

```
-Djava.library.path=IA_HOME\resource\fnp\libraries
```

ライブラリパスにスペースが含まれる場合、ライブラリパスを引用符で囲んでください:

```
-Djava.library.path="IA_HOME\resource\fnp\libraries"
```

InstallAnywhere Collaboration ツールの生産終了による InstallAnywhere Collaboration サポートの停止

Eclipse 用の InstallAnywher Collaboration プラグインの生産が終了しました。InstallAnywhere 2014 をインストールする際に、このツールは提供されません。また、InstallAnywher Collaboration のみをインストールするための個別のインストーラーも提供されていません。

InstallAnywher Collaboration の古いリリースを使って作成したデベロッパー インストール マニフェスト (DIM) がある場合は、これを 2014 プロジェクトに追加することができます。ただし、InstallAnywher 2014 では DIM ファイルのサポートは終了済みです。将来のリリースでは、DIM ファイルのサポートは完全に InstallAnywhere から削除される予定です。つまり、[DIM リファレンス] ビューと DIM 関連アクションを今後使用することはできません。また、DIM ファイルを参照するインストーラーをビルドすることも不可能となります。

すべての DIM リファレンス、および DIM 関連アクションは InstallAnywhere プロジェクトから削除して、適切な場合は標準ファイルとアクションで置き換えることが推奨されます。

OS X ビルド ターゲットおよび Java 仮想マシンの検索

プロジェクトに OS X ビルド ターゲットが含まれていて、[ビルド] ページにある [インストーラーのビルド] ビューで [VM なし] チェック ボックスが選択されている場合、インストーラーはターゲット システム上で Oracle JRE 7 以降の存在を検索します。見つからなかった場合、インストールが終了します。[VM なし] チェック ボックスには、今回より Apple JRE 6 以前を検索するオプションが提供されていません。これは、InstallAnywhere で作成されたすべての新しいプロジェクトに適用します。これは InstallAnywher 2013 以前で作成してから InstallAnywher 2014 にアップグレード済みのすべてのプロジェクトにも適用します。

MySQL、Firebird、Interbase、および Sybase ASE データベース サーバーのサポート

MySQL データベース サーバー ホストを含む InstallAnywhere 2013 以前のプロジェクトを InstallAnywhere 2014 で開くと、エンドユーザーが接続情報を指定できる新しい実行時アクションを組み込むための変更が必要であることを通知する警告が表示されます。詳細については、InstallAnywhere ヘルプ ライブラリの「エンドユーザーがデータベース 接続情報を指定できるようにする」を参照してください。

InstallAnywhere では次のバージョンの MySQL がサポートされていません:

- MySQL 4.1
- MySQL 5.0

InstallAnywhere は引き続き MySQL 5.1 をサポートし、新たに MySQL 5.5 および 5.6 もサポートします。

InstallAnywhere では今後、次のデータベース サーバーへの接続および SQL スクリプトの実行をサポートしません:

- Firebird
- Interbase
- Sybase ASE

これらのサーバー タイプの 1 つとして構成されているホストを含む InstallAnywhere 2013 以前のプロジェクトを InstallAnywhere 2014 で開くと、InstallAnywhere は警告を表示して、そのホストのサーバーの種類をデフォルトの種類である MySQL に変更します。必要に応じて、サーバー タイプをサポートされている別のタイプに変更できます。

Tomcat、Resin、および Sun Application Server のアプリケーション サーバー サポート

Tomcat アプリケーション サーバー ホストを含む InstallAnywhere 2013 以前のプロジェクトを InstallAnywhere 2014 で開くと、エンドユーザーが接続情報を指定できる新しい実行時アクションを組み込むための変更が必要であることを通知する警告が表示されます。詳細については、InstallAnywhere ヘルプ ライブラリの「エンドユーザーが Apache Tomcat サーバー情報を指定できるようにする」を参照してください。

また、InstallAnywhere では次のバージョンの Tomcat がサポートされていません:

- Tomcat 5.0
- Tomcat 5.5

Tomcat 5.0、5.5、および 6.0 のサーバー タイプを使うホストを含む InstallAnywhere 2013 以前のプロジェクトを InstallAnywhere 2014 で開くと、InstallAnywhere はそのホストのサーバーの種類を Tomcat 6.0.x、7.0.x、および 8.0 に変更します。

InstallAnywhere では、Web アプリケーションを次の種類のアプリケーション サーバーに配置するためのビルトイン サポートが今後サポートされていません。

- Resin
- Sun Application Server

これらのサーバー タイプの 1 つとして構成されているホストを含む InstallAnywhere 2013 以前のプロジェクトを InstallAnywhere 2014 で開くと、InstallAnywhere は警告を表示して、そのホストのサーバーの種類を Tomcat 6.0.x、7.0.x、および 8.0 に変更します。必要に応じて、サーバー タイプをサポートされている別のタイプに変更できます。

解決された問題

IOA-000073108

アンインストーラーのデバッグ ログ記録に今後、メッセージ「インストーラー: 作業ディレクトリに 'sea_loc' がありません。\$EXTRACTOR_EXECUTABLE\$ を定義できません。」が含まれることはありません。

IOA-000082818

デジタル署名が構成されているプロジェクト ([プロジェクト] ページ > [プラットフォーム] ビュー > [Windows] 領域 > "デジタル署名" 設定) で Windows ベースの CD-ROM インストーラーをビルドすると、CD-ROM インストーラーがビルド時にデジタル署名されます。以前、CD-ROM インストーラーはビルドされましたが、デジタル署名が行われませんでした。

IOA-000083609

デフォルト値 *install* をインストーラー名のカスタム値 ([プロジェクト] ページ > [全般設定] ビュー > [インストーラー名] 設定) に置換した場合、InstallAnywhere は今回より、ビルド時に OS X ベースのインストーラーにコード署名を行います。以前、InstallAnywhere はカスタム名の .app ファイルではなく、install.app ファイルにコード署名を行ったため、ビルド時にバイナリが存在しないことを通知するエラーが生成されました。

IOA-000084659

[システムの起動時にサービスを自動的に起動する] チェックボックスがプロジェクト内の [Windows サービスの登録] アクションで選択されている場合、アクションは Windows サービスを手動スタートアップタイプではなく、自動スタートアップタイプに登録します。

IOA-000084702

[デフォルトのブラウザを起動] アクションは今回より、OS X ベースのシステムでデフォルトのブラウザを起動して、構成済みの Web ページを開きます。以前、[デフォルトのブラウザを起動] アクションは OS X ベースのシステム上でブラウザを起動しませんでした。

IOA-000084852

ドキュメントで、InstallAnywhere が "タイムスタンプ サーバー" 設定のデフォルト値として VeriSign のサーバーを使用するという記述が削除されました。

IOA-000124105

[アーカイブを展開] アクションの "インストール先" 設定についての説明が、InstallAnywhere ヘルプライブラリで訂正されています。ドキュメントでは、この領域で [パス] 一覧の隣にあるテキストフィールドは読み取り専用と説明されています。また、アーカイブのインストール先がサブフォルダーである場合、[フォルダーの作成] アクションを使って親フォルダーを作成することが記述されています。次に、[フォルダーを作成] アクション内にアーカイブ アクションを移動させます。

以前、ドキュメントでは、この領域の [パス] 一覧の隣にあるテキスト フィールドにサブディレクトリ情報を入力可能であるという、誤った記述がありました。

IOA-000124247

カスタム コードで、11 から 25 までの番号を持つ 1 つ以上のマジック フォルダーを参照した場合に、参照されるマジック フォルダーの列挙型定数が不足していると通知するエラーの問題が解決されました。

IOA-000124610

JRE 7 を使用する Apple OS X 上でグラフィック LaunchAnywhere ランチャーのカスタム Xjava.library.path 値を指定すると、カスタムパスが使用されます。

IOA-000124715、IOA-000124716

InstallAnywhere 変数 \$RESTART_NEEDED\$ に関するドキュメントの記述が拡張されました。今回より、この変数に使用可能な各値について説明されています。さらに、ドキュメントには、この変数が読み書き可能であると記述されています。以前は読み取り専用となっていました。

IOA-000124866

オートメーション API javadocs には、今回より、getDiskSpaceUnit() および setDiskSpaceUnit() メソッドについての詳細が含まれます。これらのメソッドは、ディスク領域単位の整数の 1 つを受け付けます:

- 0 = バイト
- 1 = キロバイト
- 2 = メガバイト
- 3 = ギガバイト

IOA-000124941

プロジェクト オートメーション API と共にカスタム コードを使うと、[インストール前の要約] パネル アクションの [ディスク領域情報に使用する単位] の値が [バイト] にリセットされる問題が解決されました。

IOA-000125133

[変数] ビューの [ヘルプ] 列に表示される \$EXTRACTOR_DIR\$ および \$INSTALLER_LAUNCH_DIR\$ 変数の説明が拡張されました。拡張された説明には、適切なターゲット プラットフォームがリストされています。\$EXTRACTOR_DIR\$ は、AIX、HP-UX、Linux、Solaris、UNIX、および Windows で使用できます。\$INSTALLER_LAUNCH_DIR\$ は、OS X および純粋 Java で使用できます。また、拡張された説明では、他の変数への参照も含まれています。

InstallAnywhere ヘルプ ライブラリ内のこれらの変数の説明も、適切に更新されています。

IOA-000125136、IOA-000125412

Mac OS X の[認証] 領域の設定 ([プロジェクト] ページ、[プラットフォーム] ビュー) は、InstallAnywhere Professional Edition では非表示となっています。この機能は、Premier Edition でのみサポートされています。InstallAnywhere Professional Edition では OS X ベースのインストーラーにビルド時に認証を含めることができませんが、以前はこれらの設定が Professional Edition で表示されていました。

また、認証サポートについて言及する InstallAnywhere ヘルプ ライブラリのヘルプトピックでも、このサポートが Premier Edition でのみ提供されていることが明記されています。さらに、「InstallAnywhere のエディション」ヘルプトピックでは、このサポートが Premier Edition で提供されている機能の 1 つであって、Professional Edition では使用できないことが記載されています。

IOA-000125359

JRE 7 が OS X ベースのインストーラーと共にバンドルされている場合、今回より、正しく処理を分割することができます。以前、JRE 1.7.0_55 をインストーラーにバンドルすると、アクセス許可関

連の問題が発生しました。たとえば、すべてのファイルが 644 アクセス許可を使ってインストールされました。プロセスを分割するアクション(たとえば [ANT を実行] や [スクリプトを実行] アクションなど)は動作しませんでした。ディスク領域が使用できず、アンインストーラーが動作しませんでした。

IOA-000125413、IOJ-1659126

Java 1.7.0_55 x64 または Java 1.7.0_55 32 ビット使用するインストーラーで、Windows Server 2012 R2 のターゲット システム上で抽出の後にエラーが発生する問題が解決されました。

IOC-000090860

LaunchAnywhere 起動プログラムが OS X ベースのシステムでダブルクリックによって起動され、Java コードが実行するときに、ファイルが ASCII ではなく UTF-8 に正しくエンコードされます。このため、インストーラーに日本語文字または 2 バイト文字を使用しなくてはならないアクションが含まれている場合、アクションで 2 バイト文字が使用できるようになりました。たとえば、日本語文字を含む名前を持つファイルの属性を取得する、または日本語文字がパスに含まれているカスタム コード アクションがファイルの属性を正しく取得できるようになりました。さらに、インストーラー ログ ファイルに日本語文字による書き込みが必要な場合、それらが文字化けすることがなくなりました。

IOJ-1661418

IA_HOME/resource/launchanywheres/unix/launix.sh の jitOnOrOff 変数の定義について、シェル スクリプトのスペル エラー(例、*compiler* ではなく *compler*) が訂正されました。以前、この変数のスペルエラーのため、特定のプラットフォーム上で変数が正しく設定されませんでした。

さらに、IA_HOME/resource/self_extractors/unix/use.sh ファイルの lax.nl.java.compiler 変数の値が、*off* から *on* に変更されました。

IOJ-1661423

InstallAnywhere ヘルプ ライブラリの「インストーラーおよびアンインストーラーとコマンドライン引数の使用」ヘルプ トピックには、コマンドラインからカスタム変数を設定する方法について、3 つの異なるプラットフォーム固有の例が含まれています。以前、このヘルプ トピックには 1 つしか例が含まれておらず、構文にも誤りがありました。

IOJ-1661435

インストーラーが OS X 10.8 または 10.8 システム上で実行されているとき、十分なディスク領域がない場所にファイルをインストールする必要がある場合、有効な領域のすべてを使い果たすまでインストーラーが処理を続行することがなくなりました。さらに、[インストール前の要約] パネルには、ディスク容量がバイト、キロバイト、メガバイト、またはギガバイトで正しく表示されます。以前、パネルには有効な領域が表示されないか、値 -0 が表示されました。ターゲット システムに

十分なディスク要領がない場合、インストーラーは [ディスク容量が不足しています] パネルで、適切な警告メッセージが表示されます。

システム要件

InstallAnywhere を実行するシステム要件 (オーサリング環境)

RAM

256 MB (512 MB 推奨)

ハードディスク空き容量

500 MB

色

High color (16 ビット)

解像度

1200 x 800 以上

オペレーティング システム

InstallAnywhere は、最新のパッチおよびサービス パックで完全に更新されている、以下のオペレーティング システムの最新バージョンで実行できます。

オペレーティング システム

サポート対象バージョン

Windows

- Windows 8.1 (x86 および x64)
- Windows Server 2012 R2 (x64)
- Windows 8 (x86 および x64)
- Windows Server 2012 (x64)
- Windows 7 (x86 および x64)
- Windows Server 2008 R2 (x64)
- Windows Vista
- Windows Server 2008 (x86 および x64)

Apple

- OS X Mavericks (10.9.2) - Oracle Java 7 または 8
- OS X Mountain Lion (10.8) - Oracle Java 7 または 8
- OS X Lion (10.7.3) - Oracle Java 7

Linux

- Red Hat Enterprise Linux 6.5 (デスクトップとサーバー エディション、x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.4 (デスクトップとサーバー エディション; x86 および x64)
- Red Hat Enterprise Linux 5 および 6 (x86 および x64)
- SUSE Linux 10 (x86)
- OpenSUSE Linux 11.2、11.3、11.4、12.1、12.2、および 12.3 (x86 および x64)
- SUSE Linux Enterprise 11 SP2 (x64)
- Linux PPC 64 ビット (ビルド時のみ) - Java 6 のみ
- Ubuntu 14.04 (x64)
- Ubuntu 13.04 (デスクトップとサーバー エディション ; x86 および x64)
- Ubuntu 10.10、11.10、12.04 (x86 および x64)
- Fedora 18 および 19 (デスクトップとサーバー エディション ; x86 および x64)
- Fedora 14、15、16、および 17

注意: InstallAnywhere を Linux システムにインストールした時、デフォルトの Linux ローダー (/lib/ld-linux.so.2) と同じ名前のリンクが既に存在した場合、シンボリックリンクが作成されます。シンボリックリンクは、ホスト ID が [ホスト ID] ダイアログで表示されるために必要であり、ノードロック型ライセンスが正しく機能するためにも必要です。リンクは、Linux Standard Base (LSB) 3 に対応しているシステムに存在していますが、対応していないシステムには存在していないこともあります。詳細については、ナレッジベース記事 Q209204 を参照してください。

Solaris

Solaris 9、10、および 11 (SPARC)

インストーラーは、サポートされている任意のオーサリング プラットフォームからビルドして、サポートされているすべてのターゲット プラットフォームおよび言語に対応させることができます。Premier Edition では、31 ケ国語のローカリゼーションが提供されています。Professional Edition では、9 ケ国語のローカリゼーションが提供されています。

ターゲット システムの要件 (インストーラー実行環境)

RAM

64 MB

色

High color (16 ビット)

解像度

640 x 480 以上

オペレーティング システム

インストーラーは、オペレーティング システムが Java 6、7、または 8 (OS X の場合 Oracle Java 7 または 8) をサポートしていることを条件に、バージョンに関わらず、以下のすべてのオペレーティング システムで実行できます。InstallAnywhere で生成されたインストーラーは、明記されていない限り、ベータ版または初期アクセス版ではサポートされていません。

オペレーティング システム

サポート対象バージョン

Windows

- Windows 8.1 (x86 および x64)
- Windows Server 2012 R2 (x64)
- Windows 8 (x86 および x64)
- Windows Server 2012 (x64)
- Windows 7 (x86 および x64)
- Windows Server 2008 R2 (x64)
- Windows Vista (x86 と x64)
- Windows Server 2008 (x86 および x64)
- Windows XP (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64)
- Windows Server 2003 (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64)

Windows ベースのターゲット システムは、SSE2 命令セットもサポートする必要があります。

Apple

- OS X Mavericks (10.9.2) - Oracle Java 7 または 8
- OS X Mountain Lion (10.8) - Oracle Java 7 または 8
- OS X Lion (10.7.3) - Oracle Java 7

Linux

- Red Hat Enterprise Linux 6.5 (デスクトップとサーバーエディション、x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.4 (デスクトップとサーバーエディション; x86 および x64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.2 (x86 および x64) と 6.3 (x86 および x64)
- Red Hat Enterprise Linux 4 (Java 6 あり) と 5 (x86、x64、Itanium 2、および AMD-64)
- SUSE Linux 9 (x86) (Java 6 搭載)
- SUSE Linux 10 (x86)
- OpenSUSE Linux 11.2、11.3、11.4、12.1、12.2、および 12.3 (x86 および x64)
- SUSE Linux Enterprise 11 SP2 (x64)

- zSeries Linux
- Linux PPC (x64)
- Ubuntu 14.04 (x64)
- Ubuntu 13.04 (デスクトップとサーバー エディション ; x86 および x64)
- Ubuntu 9.10、10.10、11.4、11.10、12.04 (x86 および x64)、および 12.10 (x86 および x64)
- Fedora 18 および 19 (デスクトップとサーバー エディション ; x86 および x64)
- Fedora 13、14、15、16、および 17

Solaris

- Solaris 11 (x86 および SPARC)
- Solaris 9、10 (x86、SPARC、および AMD-64)

HP-UX

HP-UX 11i (Itanium 2 と PA-RISC)

AIX

AIX 5.2、5.3、6.1 および 7.1 (Power/PowerPC)

IBM

- System i の i5/OS (OS/400) - V5R3 と V5R4 (Enterprise Edition のみ)、IBM i 6.1、および IBM i 7.1
- z/OS

その他

- FreeBSD
 - 他の Linux および Unix オペレーティング システム (POSIX 準拠シェルが必要)
-

サポート対象の Java VM

InstallAnywhere は、以下の Java 仮想マシンをサポートします:

製造元 サポート対象の JVM バージョン

Sun: 1.6.x、1.7.x

IBM 1.6.x、1.7.x

HP 1.6.x

Oracle 1.7.x、1.8.x

InstallAnywhere インストーラーは、Java 1.7.0_60 VM パックをインストールします。また、任意の Java VM をインストーラーにバンドルして、ターゲット システムでインストーラーとアプリケーションの最低要件を確実に満たすことができます。追加の JRE VM パックをダウンロードするには、<http://www.flexerasoftware.com/installanywhere/utilities> へアクセスして、[VM Packs] タブをクリックしてください。

InstallAnywhere で生成されたインストーラーは、Java のベータ版または初期アクセス版ではサポートされていません。

仮想アプライアンスの要件

仮想アプライアンスのビルドと自動配置におけるシステム要件

次のテーブルは、InstallAnywhere における、仮想アプライアンスのビルドと自動配置におけるシステム要件です：

ハイパーバイザー 要件

VMware vSphere 5/vCenter	<ul style="list-style-type: none">VMware vSphere 5 サーバーの資格情報使用中の VMware vSphere 5 サーバーが VMware vCenter 5 サーバーによって管理されている場合、VMware vCenter サーバーの資格情報も必要になります。ホスト マシンの資格情報 (仮想アプライアンスのオペレーティング システムに類似する物理的/仮想マシンの資格情報)
Amazon EC2	<ul style="list-style-type: none">Amazon EC2 のアカウント情報 (Amazon EC2 アカウントに関連付けられているアカウント番号、アクセス キー、秘密鍵、x.509 証明書、私有鍵)ホスト マシンの資格情報 (仮想アプライアンスのオペレーティング システムに類似する物理的/仮想マシンの資格情報)

仮想アプライアンスにサポートされているハイパーバイザーとプラットフォーム

InstallAnywhere では、VMware vSphere 5 と Amazon EC2 のハイパーバイザーで実行できる仮想アプライアンスの作成がサポートされています。VMware vSphere 5 仮想アプライアンスは、ライセンス済みの VMware vCenter 5 Server が管理するライセンス済みの VMware vSphere 5 Server (スタンドアロン) またはライセンス済みの VMware vSphere 5 Server に配置することができます。

次の表は、サポートされているハイパーバージョンでサポートされているオペレーティング システムの一覧です。

サポート対象のハイパーバイザーとサポート対象のオペレーティング システム

VMware vSphere 5/vCenter	<ul style="list-style-type: none">Ubuntu 6.2 および 6.3 (x86 および x64)OpenSUSE 12.2 (x86、x64) および SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2 — 既存する SUSE VM またはスナップショットが必要 (SUSE VM 仮想アプライアンス テンプレートを使用することはできません)Red Hat Enterprise Linux 6.4 (x86、x64) — Red Hat Network で登録されている RHEL VM 仮想アプライアンス テンプレートが必要
---------------------------------	--

- Red Hat Enterprise Linux 6.3 (x64) — Red Hat Network で登録されている RHEL VM 仮想アプライアンス テンプレートが必要
- Windows 13.04 (x86 および x64)
- Windows 12.10 (x86 および x64)
- Windows 12.04 (x86 および x64)
- Windows 11.10 (x86 および x64)

-
- Amazon EC2**
- Ubuntu 11.10 (x32)
 - Ubuntu 12.04 (x32)
-

仮想アプライアンスを作成するとき、InstallAnywhere が JRE 1.7 または 1.8 で起動されている必要があります。

既知の問題

既存の問題の一覧は、[InstallAnywhere 2014 既存の問題に関するナレッジベース記事](#)を参照してください。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2014 Flexera Software LLC. All Rights Reserved.

この出版物には、Flexera Software LLC および該当する各許諾者によって所有されている権利、機密情報、創作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software LLC からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software LLC によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software LLC が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本技術およびそれに関する情報のすべての複製は、Flexera Software LLC により許可されている場合限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

フレクセラ・ソフトウェアが所有する商標および特許については、<http://www.flexerasoftware.com/intellectual-property> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェアの製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の登録商標または商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピューターソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。それ以外の使用は一切禁止されています。